

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項 目	前回（6 年 7 月判断）	今回（6 年 10 月判断）	前回 比較
総括判断	持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直している	

（注）6 年 10 月判断は、前回 6 年 7 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、スーパーやコンビニエンスストアが堅調となっていることから、全体としては緩やかに持ち直している。生産活動は、パルプ・紙が緩やかに持ち直しつつあるものの、汎用・生産用機械が一進一退の状況にあることから、全体としては一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項 目	前回（6 年 7 月判断）	今回（6 年 10 月判断）	前回 比較
-----	---------------	----------------	----------

個人消費	持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直している	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

設備投資	6 年度は前年度を上回る見込み	6 年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	6 年度は増益見込み	6 年度は増益見込み	
企業の 景況感	現状判断は「下降」超	現状判断は「下降」超	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年度を上回っている	前年度を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパーは、飲食料品が堅調であるほか、身の回り品に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。コンビニエンスストアは、米飯類や飲料等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。ドラッグストアは、飲食料品や化粧品等に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、一部の高付加価値製品やエアコン等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。ホームセンターは、季節商品や防災用品に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。百貨店は、高額品等に動きがみられるものの、飲食料品に弱さがみられることから、全体としては底堅いものとなっている。乗用車の新車登録・届出台数は、小型車は前年並みとなっており、普通車及び軽乗用車は前年を上回っていることから、全体としては前年を上回っている。観光は、外国人観光客の増加により、緩やかに回復している。国内旅行は、回復に向けたテンポが緩やかになっており、海外旅行は、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 物価高や光熱費の高騰、食材の相場高を受けた節約志向から、少量の総菜や冷凍野菜が好調。(スーパー)
- 地震や台風による買いだめ需要で、飲食料品や家庭用品が好調。(スーパー)
- 猛暑の影響や夏のレジャーに向けた外出需要により、暑さ対策グッズや旅行用カバンなどの売行きが特によかった。(スーパー)
- 販売促進効果により、おにぎりやお弁当、ペットボトル飲料の売行きがよい。(コンビニエンスストア)
- 気温が例年より高かったため、冷たい麺類やアイスクリームの売上高が前年を上回っている。(コンビニエンスストア)
- 販売促進に注力している冷凍食品が引き続き好調。防災用飲食料品も売上げを伸ばしている。(ドラッグストア)
- 猛暑の影響により、季節商品の日焼け止めや制汗剤の売行きがよかった。基礎化粧品も好調。(ドラッグストア)
- 一部商品で買替えサイクルの長期化がみられるものの、ドラム式洗濯機等の時短家電の需要は引き続き高い。(家電大型専門店)
- 省エネ家電導入促進事業の効果から、エアコン等の省エネ家電の売上げが伸びている。テレビにおいては、オリンピック需要もみられた。(家電大型専門店)
- 猛暑の影響で、エアコンや扇風機、空調服等が好調。(ホームセンター)
- 地震や台風により、防災用品全般の売上げが伸びた。(ホームセンター)
- インバウンドの増加などから、ブランドバッグなど的高額品や化粧品が引き続き好調。(百貨店)
- 節約志向の高まりから、飲食料品を中心に買い控えの動きがみられる。(百貨店)
- 自動車メーカーの出荷・生産が再開されたことで、販売状況は回復傾向にある。(乗用車)
- 地震や台風があったものの、円安下での買い物や四国でのアクティビティを目的とした外国人観光客が多く、国際線の搭乗者数は好調。(観光)
- 国内旅行は、猛暑や物価高による節約志向等の影響を受け、需要回復に一服感がある。(旅行)
- 海外旅行は、円安や燃油サーチャージの高騰が継続しているものの、リピーターや富裕層を中心とした需要があり、回復基調。(旅行)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

パルプ・紙は、一部に弱い動きがみられるものの、衛生用紙を中心に、緩やかに持ち直しつつある。非鉄金属は、堅調な需要を背景に、回復しつつある。食料品は、堅調な需要を背景に、緩やかに持ち直している。汎用・生産用機械は、一部に弱さがみられることから、一進一退の状況にある。

- 衛生用紙は、地震・台風の影響により備蓄用としてトイレットペーパー等の需要が増加。(パルプ・紙)
- 車載用電池向け需要は引き続き堅調。(非鉄金属)
- 夏場に人気の加工食品について、猛暑の影響もあり例年以上の売上げとなった。(食料品)
- 自動車向けは認証不正問題の影響が一服した一方で、台風による工場稼働停止のため受注が減少。(汎用・生産用機械)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は横ばいとなっている。新規求人数は前年を下回っている。法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIをみると、9月末は全産業で35.6%ポイントと「不足気味」超となっている。

- 新規求人数の減少は、求人の提出時期のずれや前年より稼働日が少なかったことなどによるもので、様々な業種で人手不足の状態が続いている。(公的機関)
- 人手不足が解消しないことから、事業者が民間の求人サイトも利用して募集するケースや、外国人労働者に頼るケースが増えてきている。(公的機関)
- 若手の確保が難しくなっているため、外国人労働者に頼らざるを得ない。(その他の輸送用機械器具製造)
- 人手不足のため、宿泊は夕食抜きプランにしたり、婚礼があるときは宴会を断ったりして対応している。(宿泊、飲食サービス)

■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7～9月期

- 製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「6年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7～9月期

- 非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で増益見込みとなっており、全体としては増益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、分譲は前年を上回っているものの、持家及び貸家は前年を下回っており、全体としては前年を下回っている。

- 原材料価格の高騰等を反映した住宅価格の値上がり、住宅需要低迷の主な要因となっている。(専門サービス)

■ 公共事業 「前年度を上回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、国は前年度を下回っているものの、独立行政法人等、県及び市町村は前年度を上回っており、全体としては前年度を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (6年7月判断)	今回 (6年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
徳島県	持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
愛媛県	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しの動きに一服感がみられる。
高知県	持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直しつつある		個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。